

どのようにして歴史の授業を作るのか（４）

—教科書を活用した「アヘン戦争」の授業化—

岡 明 秀 忠

1. はじめに

日々の授業をどう作るかは、教師にとって大きな課題である。筆者も、社会科、地理歴史科、公民科の授業をどのように作るかを学生に指導してきているが、まだまだ不十分である。今回、学生に「アヘン戦争」の授業を作るように指示をした⁽¹⁾。

- ① ベテラン教師がおこなった「アヘン戦争」の授業を視聴させた。その際、内容のまとまりで切って、検討を加えた。ベテラン教師の授業から、学習指導案に記される「学習内容」「学習活動」「指導上の留意点」を推測させた。
- ② 3人組に別れ、指導内容の検討、学習指導案の検討をさせた。各組とも、教科書、資料集を参考に、学習指導案の作成をおこなった。

2週間後、学生による模擬授業を実施した。そこで典型的な課題が出てきた。問いがなく、教科書に書いてあることをそのまま教える模擬授業であった。

国語科、英語科の授業であれば、教科書の本文をしっかり読み、教師が解説し、問いを投げかけ、本文の内容をしっかり把握させることが目指される。しかし、社会科、地理歴史科、公民科の授業では、教科書の本文をしっかり読ま

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

せること(活用させること)が十分になされていないことが多い。

本稿では、「アヘン戦争」を事例に教科書を活用した学習指導案を作成する。

2. 教科書をどう読み解くか

社会科、地理歴史科、公民科の教科書は、ある事象(社会的事象、歴史的事象、地理的事象など)について簡潔にまとめられている。教科書が、百科事典と呼ばれる所以である。教科書は、その分野に関する知識の宝庫であるが、そのまま受容するのは、私たちにとって容易ではない。闇雲に暗記させれば、社会科、地理歴史科、公民科嫌いの子どもを作ってしまう。授業を通じて、自分なりに、知識を受容するための仕組みを形成する必要がある⁽²⁾

社会科、地理歴史科、公民科は、暗記教科ではない。私たちの社会をどう見るのか、どう考えるのかを考える素材を提供する教科である。「アヘン戦争」の授業であるが、「アヘン戦争」そのものを覚えることが主眼ではなく、「アヘン戦争」を事例に、私たちの社会がどうなっているか、私たちの社会をどうより良くしていったら良いか、を探ることが重要である。

「アヘン戦争」付近の教科書の見出しは、どうなっているか。東京書籍の『世界史B』⁽³⁾をみると、表1のようになっている。西アジア、南アジア、東南アジアの変革をみて、東アジアの変貌を検討するようになっている。東アジアの変貌では、アヘン戦争前後から中華民国の成立までが範囲となっている。世界史ではあるが、日本と関わりがあるということで、日清戦争、日露戦争、韓国併合などが含まれている。

「アヘン戦争」に関連する部分に注目してみよう。表1の点線で囲った部分である。記述を簡単に整理すると、表2のようになる。

表2から、「アヘン戦争」前後のことが、基本的に時系列で記述されていることがわかる。教科書を読むことで、「アヘン戦争」に関する一連の知識を習得す

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

表1 教科書の章立て:「アヘン戦争」付近

第4編 一体化の進展と世界の再編
第17章 アジア諸地域の変革運動
1 西アジアの改革運動
2 南アジア・東南アジアの植民地化と民族運動の黎明
3 清の動揺と変貌する東アジア
18世紀後半～19世紀前半の変化
イギリスの軍事衝突と欧米諸国の条約締結
頻発する地方反乱と「洋務」
東・東南アジアをめぐる国際情勢の変容
冊封関係の再建と朝鮮情勢
日清戦争と清をめぐる国際情勢
戊戌の政変と義和団戦争
日露戦争と日本の韓国併合
辛亥革命と中華民国の成立

表2 教科書の整理:「アヘン戦争」付近

第1段落	第2段落	第3段落	第4段落	第5段落	第6,7段落	
18世紀後半の清の国内状況	清の貿易体制とイギリスの打開策	三角貿易によるアヘン貿易の拡大	アヘン吸引拡大による社会問題化	アヘン戦争と南京条約	アロー戦争と天津条約・北京条約	日清戦争と下関条約

るようになっている。

しかし、時系列に読み進む場合、意識して読まない、闇雲に覚えることになる。そこで、「戦争」という括りで整理すると、表3ようになる。

表3から、戦争の背景、原因、発端、展開、終結について記されていることがわかる。

表3 教科書の整理:「アヘン戦争」付近

第1段落	第2段落	第3段落	第4段落	第5段落	第6,7段落	
アヘン戦争					アロー戦争	日清戦争
背景(清・英の状況)		原因		発端, 展開, 終結	発端, 展開, 終結	発端, 展開, 終結

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

しかし、教科書で何を伝えたいかが曖昧である。最後に、〈アヘン戦争⇒アロー戦争⇒日清戦争〉を射程範囲に入れた「中国とイギリスの対立」という括りで整理した。

表4 教科書の整理：「アヘン戦争」付近

第1段落	第2段落	第3段落	第4段落	第5段落	第6,7段落
中国	朝貢・冊封体制				
	イギリス	自由貿易	対立		
		アヘンのインドからの輸出		⇒ 公認	
		ボックス・ブリタニカの維持 (三角貿易の維持)			

表4にも示したように、イギリスがアヘンを密輸し続けた背景には、ボックス・ブリタニカの維持があったことを押さえる必要がある⁽⁴⁾。この点について、専門書にははっきりと記されているが、教科書ではあまり触れられていない。

3. 学習指導案をどう作るか

学生は、教科書が絶対であると思い、その順番を守ることに固執する。その呪縛から抜け出し、教科書記述の順番に固執しない授業展開を考えることが必要である。そうすれば、生徒が驚いたり、頷いたりするような展開になる。そのためには、どこから(どこの文書、資料から)始めるかが重要になってくる。

まず、東京書籍の『世界史B』の教科書1冊(アヘン戦争からアロー戦争終結までの部分)をしっかりと読み込み、記述を整理し、「習得させたい知識」として明らかにした⁽⁵⁾。教科書の記述の順番に、1、2…と番号を付した。

次に、教科書そのものに「問い」が記されていないので、「習得させたい知識」を導き出すような問いを考えた⁽⁶⁾。本稿では、「戦争と条約」を一括りにし、そこに疑問を持たせることで授業を始めることにした。つまり、「当時は

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

■■な状況でした。○○戦争が始まりました。戦争は●●で進みました。結果として□□条約を結びました」という時系列で展開するのではなく、「○○戦争が起こり、□□条約を結びました。なぜ○○戦争が起こったか？ なぜ□□条約を結んだか？」から授業を始めることにした。したがって、「習得させたい知識」は、後掲の学習指導案「アヘン戦争」では、1、2…の順で示されないことになった。

指導過程を細かく考えていくと、教科書に記述されていない知識が明らかになった。つまり、納得できる説明、資料を探すことが必要となってきた。そこで、現行の学習指導要領に準拠した別の世界史 B、世界史 A の教科書、そして資料集を調べ、納得できる説明、資料がないかを探した。納得できる説明、資料があれば、「習得させたい知識」として付け加えた⁽⁷⁾。今回、世界史 B、世界史 A の教科書でどのような資料が取り上げられ、どのような説明がなされているかも併せて調べた。その分析表が、以下の表 5 である⁽⁸⁾。

表 5 世界史 B、世界史 A で取り上げられた資料：「アヘン戦争」付近

資料名	種類	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
中国を中心とした地域関係	図							●								
清代のアジア	地図							●								
清朝と隣接諸国	説明							●								
白蓮教徒の乱	説明	●														
乾隆帝がマカートニー使節団に与えたイギリス国王ジョージ 3 世に対する上諭	文書		●													
乾隆帝乗馬図	絵									●						
★乾隆帝とマカートニー (1793 年)	絵									●						
	絵 + 説明	●	●			●							●	●		
(三跪九叩頭)	説明								●							
紅茶を飲むイギリスの家族	絵 + 説明				●											
(ミルクティーの普及)	説明	●														
広州の商館 (19 世紀の絵)	絵 + 説明				●											

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

(東インド会社の活動停止)	説明	●																			
(中国綿布 VS イギリス綿布)	説明																			●	
清をめぐる交易関係英 VS 清	図+説明						●														
清をめぐる交易関係東インド会社							●														
★三角貿易 (19世紀)	図	●					●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
19世紀前半の大西洋三角貿易とアジア三角貿易の概念図	図+説明	●																			
イギリスの三角貿易			●																		
銀の流入から流出へ	説明		●																		
アヘン	写真	●								●											
アヘン	説明									●		●									
アヘン倉庫厳禁論 VS 緩禁論	写真+説明									●											
アヘン煙の吸引	写真																			●	
★アヘン窟/アヘン吸引	写真+説明									●										●	
18世紀後半以降の中国 (1757~1912)	年表									●											
★インド産アヘンの輸出額の推移	グラフ	●	●			●				●										●	
広東貿易でのアヘン貿易の推移	グラフ																			●	
中国のアヘンの流入量と銀の流出額																					●
中国のアヘン輸入額と銀の流出額	グラフ+説明																			●	
(清の官僚の対応)	説明	●																			
林則徐	絵									●	●			●					●	●	●
	説明									●	●			●					●	●	●
林則徐からヴィクトリア女王への手紙	文書																			●	
アヘン貿易をめぐる清の考え (許乃濟, 林則徐)	文書		●																		
アヘン貿易をめぐるイギリスの考え	文書		●																		
アヘン貿易をめぐるイギリスの考え	絵+説明		●																		

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

アヘン戦争	絵	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	説明	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
イギリス議会	説明																	●	
平英団事件	説明		●																
南京条約	説明																		●
不平等条約	説明					●		●		●									
(片務的)最恵国待遇	説明				●	●		●											●
治外法権	説明	●																	
領事裁判権	説明	●		●															
協定に書き込まれた関税率	説明			●															
開港場	説明																		●
アヘン戦争と南京条約開港地	地図		●																
★天津, 北京条約の開港場			●							●									
★南京, 天津, 北京条約の開港場		●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
★南京, 天津, 北京条約の開港場, ロシア				●															
★ロシアの東方への領土拡大	地図	●	●		●	●	●												
列強のアジア進出																			●
イギリス・ロシアの東方進出																			●
天津条約	説明		●																●
天津条約の調印	写真+説明																		●
北京条約	説明																		●
世界史の中の日本	説明																		●
アロー号事件	説明	●	●						●		●						●		●
アロー戦争	説明		●																●
アロー戦争から太平天国にかけての清	写真																		●
破壊された円明園	写真																		●
	写真+説明	●																	
円明園	説明					●													●
天津条約の調印	写真																		●
★清が各国と結んだ条約(南京, 天津, 北京条約)	表																		●
1850年ころの香港	写真+説明																		●
香港	写真																		●

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

表5から、世界史B、世界史Aの教科書で、どのような資料が使われているかが明らかになった。よく使われる資料については、後掲の学習指導案「アヘン戦争」でも取り上げた。しかし、授業で使用するとすると、扱いが難しいものもある。それらの資料は、できるだけ分解し、状況に応じて検討させるような展開にした⁽⁹⁾。

最後に、「アヘン戦争」に関する手頃な専門書を調べ、納得できる説明、資料がないかを探した。納得できる説明、資料があれば、「習得させたい知識」として付け加えた⁽¹⁰⁾。

教授書には、通常、教授・学習活動も載せられているが、紙幅の関係で割愛した⁽¹¹⁾。

4. 学習指導案「アヘン戦争」

	主な発問 (Q) と指示 (D)	習得させたい知識
導入	D1 絵1をみてみよう。	絵1 アヘン戦争(蒸気船・ネメシス号 VS ジャンク型軍船)
	D2 アヘン戦争と南京条約について確認しよう。	26 イギリスは、清との開戦を決め、艦隊を派遣し、広州などを攻撃した(アヘン戦争1840-1842)。その結果、清はやぶれ、南京条約を締結した。
	Q1 なぜイギリスは清との開戦を決めたか?	23 林則徐がアヘンを没収して廃棄し、アヘン貿易を厳禁したから戦争が起こった。 25 イギリスは武力による自由貿易の拡大を正義とみなし、戦争を起こした。
展開1 アヘン戦争	D3 まずは 23 について検討しよう。	
	Q2 アヘンとは何か?	17 麻薬の一種で、習慣性が強く、常飲すると心身ともに廃人になる。 <hr/> 効用 ケシの実の外皮から液汁を採取し乾燥させてつくられ、含有されるモルヒネ成分が鎮痛・鎮静効果

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

の
原因
①

を持つ(⑱ p. 227)。台湾でマラリアの薬として用いられた(⑯ p. 176)。古来世界各地で薬として利用されていた(⑥ p. 181)。

毒性 強力な中毒性をもつ麻薬である。経口摂取が多いが、中国ではタバコに混ぜて吸引する方法が流行した(⑥ p. 181)。19世紀には、中国だけでなく、英仏においてもアヘンが大流行し、詩人ボードレールも健康を蝕まれた(⑱ p. 227)

Q3 アヘンは清にどのような問題をひき起こしたか？

16 清ではアヘン吸引の習慣が広がり、以後100年以上にわたって中国最大の社会問題の一つとなった。

問題 イギリスのアヘン貿易により、中国人のアヘン吸引が広がり、多数の中毒患者をうみ、人々の生活を苦しめた(⑭ p. 112)。**数** 中国全土のアヘン常用者は1830年代末には500万人以上となっていた(⑯ p. 176)

D4 グラフ1をみて、どのようなことがわかるか？

グラフ1 インド産アヘンの対清輸出額の推移(1813-1838) 縦軸単位・ポンド



20年近くの間、インド産アヘンが清国内に約8倍近く輸出されていることがわかる。急激な伸びであることがわかる。

Q4 なぜアヘンの吸引が拡大したか？

15 1834年、東インド会社の対清貿易独占権が廃止されると、カントリートレーダーと呼ばれるイギリス人の商人やアメリカ合衆国の商人、華商も参画し、アヘン貿易が拡大したから。

官僚の腐敗 貿易赤字の打開をねらうイギリス東

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

	<p>インド会社が輸出したインド産のアヘンは、私利私欲に走る一部清朝官僚による売買などで中国全土に拡大した(⑰ p. 218)。東インド会社の停止⇒貿易の自由化 イギリスは、1833年に東インド会社の商業活動を停止し、イギリス商人による中国貿易を自由化した(① p. 318)。</p>																																																															
<p>Q5 清ではどのような問題が起こったか？</p>	<p>18 清は対イギリス貿易で輸入超過となり、清から銀が流出した。</p>																																																															
<p>D5 グラフ2をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>グラフ2 中国のアヘン輸入額と銀の流出額の推移(1817-1834) 縦軸単位・万両(⑩ p. 135, ⑫ p. 144)</p> <p style="text-align: center;">中国のアヘン輸入額と銀の流出額の推移 (1817-1834)</p> <table border="1"> <caption>中国のアヘン輸入額と銀の流出額の推移 (1817-1834)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>アヘンの輸入額 (万両)</th> <th>銀の流出額 (万両)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1817</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1818</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1819</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1820</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1821</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1822</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1823</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1824</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1825</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1826</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1827</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1828</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1829</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1830</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1831</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1832</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1833</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1834</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1835</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1836</td><td>0</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">----- 銀の流出額 —— アヘンの輸入額</p> <p>出超から入超へ 清の対英貿易は、1824年を境に、それまでの茶輸出に依存した出超から、アヘン輸入に伴う入超にかわった(⑱ p. 227)。</p>	年	アヘンの輸入額 (万両)	銀の流出額 (万両)	1817	0	0	1818	0	0	1819	0	0	1820	0	0	1821	0	0	1822	0	0	1823	0	0	1824	0	0	1825	0	0	1826	0	0	1827	0	0	1828	0	0	1829	0	0	1830	0	0	1831	0	0	1832	0	0	1833	0	0	1834	0	0	1835	0	0	1836	0	0
年	アヘンの輸入額 (万両)	銀の流出額 (万両)																																																														
1817	0	0																																																														
1818	0	0																																																														
1819	0	0																																																														
1820	0	0																																																														
1821	0	0																																																														
1822	0	0																																																														
1823	0	0																																																														
1824	0	0																																																														
1825	0	0																																																														
1826	0	0																																																														
1827	0	0																																																														
1828	0	0																																																														
1829	0	0																																																														
1830	0	0																																																														
1831	0	0																																																														
1832	0	0																																																														
1833	0	0																																																														
1834	0	0																																																														
1835	0	0																																																														
1836	0	0																																																														
<p>Q6 なぜ銀が重要だったか？</p>	<p>19 国内の銀価格が上がり、税を銀納していた農民を圧迫し、経済全般にわたる問題となったから。</p> <p>銀・銅両位制 清朝は財政難となり、銀貨換算で納税していた中国の民衆は、銀貨の高騰による実質的増税にあえぐことになった(⑲ p. 242)。清からの銀流出量は銀貨を高騰させ、地丁銀制度の下で租税を銀納していた農民の生活を圧迫した(⑲ p. 176)。当時の中国は国内流通通貨が銅銭、税額の表示と貿易(密輸を含む)の決済は銀という銀・銅両位制のため、密輸にともなう銀の流出が銀=銅レートを狂わせ、急激な銀高銅安現象を招来していた(⑳ p. 355)。清国は</p>																																																															

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

	<p>銀本位制である。物の値段を銀何両という表現の仕方をする。この場合の「両」は、重量の単位にすぎない。一両は 37.3125 グラムである。…政府鑄造の銀貨はほとんどない…私鑄さえ自由なのだから、純度の一定している外国銀貨は、むしろ使いやすいというので、歓迎された…。清朝は銅銭の鑄造については、完全に国家独占政策を採ったのに、それを本位とする銀銭については自由放任策をもってした。これは銅を統制することで、武器製造をチェックできたからで、銀は武器製造の原料にならないので、私鑄を許し、外国貨幣の流通まで認めたのである (21 pp. 46-47)。</p>
<p>Q7 銀納をめぐって、これまでどのようなことが起こっていたか？</p>	<p>[1] 18世紀には清に大量の銀が流入した。しかし、人口増と耕地不足による人々の移動、乱開発や森林伐採がすすむと、しだいに社会不安が高まった。四川と湖北の山間部では、世界の終末を唱える白蓮教が広まり、9年に及ぶ反乱が起こった(白蓮教徒の乱 1796-1804)。江南でも、抗租や抗糧の運動がはげしくなった。清朝は多額の費用を使って鎮圧にあたり、それが財政を圧迫した。地方では郷紳などの有力者が自衛組織(團練)を組織し、中央と協力しつつ秩序を保とうとした。</p>
<p>Q8 抗糧の運動とはどのようなものだったか？</p>	<p>[2] 抗糧は、土地税(地丁銀)の減免を求める土地所有者の運動のことを指す。</p>
<p>Q9 清はどのような対応をしたか？</p>	<p>[20] 清の官僚は、士大夫の伝統的使命感である「経世済民(世を治め民を救う)」の意識から、積極的に社会問題や経済問題に関する提言を行って、事態の改善を目指した。</p> <p>[21] 禁止されていたアヘンの吸引が広がり、密輸入がはげしくなった。</p> <hr/> <p>[禁令] 清朝皇帝はアヘン禁令を幾度も出した。…禁令は次の4つの段階を経ている。第一段階 1821~29年。…輸入厳禁。第二段階 1830~35年。…国内流通の禁止・厳罰と国内のケシ栽培禁止…。第三段階 1836年からの…財政論争。厳禁派と緩禁派の対立。第四段階 厳禁論と緩禁派の論争に道光帝が決着をつけ、アヘン没収策を断行 (23 p. 353)。</p>

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

	<p>厳禁派と緩禁論 1836年…許乃済が禁令をゆるめて関税をかけるべしとする緩禁論を上奏した。…これをきっかけに、アヘン厳禁派と緩禁派との間で激しい論争が始まる。両者の争点は財政論であった(23 p. 355)。イギリスによるアヘン密輸は清国内に深刻な銀不足をまねいた。これに対し、厳罰によってアヘンの需要を減らそうとする厳禁論と、アヘンの輸入を合法的にみとめるかわりに、支払いを銀ではなく物品に限定する緩禁論との対立が生じていた(7 p. 109)。</p> <p>[22] 1839年、アヘン厳禁を主張した林則徐を広州に派遣した。</p> <p>林則徐の来歴 欽差大臣(皇帝の任命によって特別に派遣される大臣)に任命される以前、長江中流域の湖広総督であった彼は、すでに自らの管轄地域できびしくアヘンをとりしまっていた(7 p. 109)。アヘンに関して全権を委任され、広州におもむいた。出発に際し道中の関係者に宛てて「随行員は人夫6人、下男3人のみである。特別な食事などは必要ない」と連絡している。これは当時の政府高官の赴任としては異例であった。裕福でない家庭の3男8女の次男で、幼いころの生活はきびしく、生涯質素な生活をおくった(6 p. 181)。欽差大臣(特命全権大臣)として広州におもむいてアヘン禁絶にあたり、アヘン戦争の端を開いた。海外の事情に通じた開明的学者でもあった(13 p. 107)。欽差大臣 皇帝は…すべてを任せる人物をえらび、それに「欽差大臣」の関防を与える。関防とは印章のことで、この印を捺した文書は、ほとんど詔勅と同じ効力をもつ(21 p. 271)。</p>
Q10 林則徐はどのような対応をしたか？	<p>[23] アヘンを没収して廃棄し、アヘン貿易を厳禁した。</p> <p>林則徐の対応 林は…広州に着任すると、外国人アヘン貿易商のアヘン没収を通告した。厳禁措置を断行すれば戦争になりかねない。通告の相手…エリオットは…アヘン貿易商に命じて、手持ちアヘン2万291箱を提出させた(23 pp. 358-359)。林則徐は欽差大臣として広州に派遣されてアヘンの密輸と吸引を取り締まり、外国商人からアヘン2万箱(一箱約60kg)</p>

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

		<p>を没収・廃棄した (20 p. 164)。林則徐からヴィクトリア女王への手紙「貴国ではアヘンを厳禁しておられると聞く。これもとよりアヘンの害を了知しておられるからであろう。自国に害あるものを防ぐ以上は、他国にはなおさら害を及ぼしてはならないはずである。…平然と人を害するものまで売りさばいて、あくことなき利益を貪る必要がどこにあらう。」(11 p. 133)。</p> <p>イギリスの状況 イギリス国内で…輸入された大量のアヘンが野放しに販売され、多くのアヘン中毒患者を生み出していたことがわかった (23 p. 342)。</p> <p>イギリス商人の動き アヘンの密輸と林則徐によってアヘンを没収された英国商人は、本国に軍事介入を要請した (16 p. 176)。</p>
<p>展開 2</p> <p>アヘン戦争の原因 ②</p>	<p>D6 次に25について検討しよう。</p>	
	<p>Q11 当時のイギリスと清の貿易はどのようなものだったか？</p>	<p>3 清は、冊封や朝貢を継続していた。</p> <p>4 清は、1757年以降、西洋諸国との交易を廣州1港に限定していた。</p> <p>6 イギリスは欧米最大の対清貿易国であった。</p>
	<p>Q12 冊封・朝貢とはどのようなものか？</p>	<p>冊封・朝貢体制 冊封・朝貢体制とは中華思想そのものである。冊封とは、他の諸国すべて天子の臣下であり、対等な関係を認めないこと。朝貢とは、「英夷」の困難を考慮して、「回賜」(恩恵的なお返し)をおこなうこと (17 p. 219)。清は、いわゆる貿易という観念をもたず、その必要性も感じておらず、ただ朝貢に来る使節の「英夷」に恩恵を施すだけ考えていた (23 pp. 332-333)。冊封体制は、日本と結んだ下関条約での朝鮮独立により、完全に崩壊した (17 p. 219)。</p>
	<p>Q13 なぜ廣州1港だったか？</p>	<p>貿易港の制限 1757年、乾隆帝は、外国船の来航を廣州1港に限定した (4 p. 182)。</p>
	<p>Q14 イギリスは清から何を輸入したか？</p>	<p>5 茶、生糸、絹織物、陶磁器などを輸入した。</p>
<p>Q15 イギリスはなぜ茶を輸入したか？</p>	<p>9 18世紀末のイギリスで、紅茶を飲む習慣が一般化した。中国茶の重要が高まり、対清貿易は輸入超過となった。</p>	

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

	<p>飲茶の流行 茶は、16世紀のはじめ、船員や伝道士によってヨーロッパに紹介され、はじめは薬屋で貴重薬としてはかり売りなどしていたが、しだいに喫茶の風習が一般にひろまり、特にイギリスでは、19世紀にはいつてから「ティー・タイム」が習慣化し、茶の需要は急増した。茶の供給源は中国にしかなかった。…金額にしてもおびただしい額の茶葉を、イギリスは中国から輸入しなければならなかった (② pp. 45-46)。18世紀末に始まった産業革命により、労働者の簡便な栄養補給のために砂糖入りミルクティーが普及するなど、茶の消費量が激増した (① p. 318)。ティーカップは当初は取っ手のないものであった (④ p. 182)。片貿易 イギリス側では、適当な見返りの輸出品がなかった。…中国の出超、イギリスの入超という、いわゆる「片貿易」になる。巨額の茶葉購買代金はどうしても現金決済となる。このようにして、イギリス船はメキシコ・ドル、スペイン・ドルなどの銀貨を積んで広州へ行き、そして茶葉を積んで帰るということになった (② p. 46)。</p>
<p>Q16 イギリスはどのような対応をしたか？</p>	<p>7 マカートニーやアマーストを派遣し、貿易の緩和や拡大を求めた。</p>
<p>D7 絵2をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>絵2 乾隆帝とマカートニーの会見 (1793年)</p> <hr/> <p>絵の由縁 イギリス政府から清に派遣された使節団の代表マカートニーが、1793年、乾隆帝に謁見し貿易制限の撤廃を求めたときの様子をイギリス人が想像してえがいた絵である (⑫ p. 143)。絵のイメージ 清朝皇帝は尊大であるというイメージが強調されている (② p. 211)。</p>
<p>Q17 清はどのような対応をしたか？</p>	<p>8 貿易の緩和や拡大を拒否した。</p> <hr/> <p>貿易の緩和・拡大の拒否 1793年、イギリスは対等な国交樹立と貿易拡大を求めたが、拒絶された (⑪ p. 219)。18世紀末、自由貿易を求めて中国に派遣された使節団は、遠来の朝貢使節として厚遇されたが、目的を果たせず帰国した (⑤ p. 308)。</p>

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

<p>D8 文書1を読んで、どのようなことがわかるか？</p>	<p>文書1 乾隆帝とマカートニー使節団に与えたイギリス国王ジョージ3世に対する上諭(1793年)「わが国は物産が豊かで何でもあり、外国の商品をたよって交易する必要はない。ただ、わが国が産する茶・磁器・生糸は、西洋各国そしてお前たちの国にとって不可欠なので恩恵を与えて(貿易を許して)いるのだ。」(② p. 211)。</p> <p>文書の背景 この時代、茶などを輸出してメキシコ銀などを受け取る貿易は、清朝にとって大切なものだったが、自由貿易の要求を断るために乾隆帝は虚勢をはったことになる(② p. 211)。</p>
<p>Q18 儀礼の問題とは何か？</p>	<p>10 使節が皇帝と謁見する際の儀礼が問題となった。</p> <p>三跪九叩頭 イギリスが対等な国際関係を求めたのに対し、清朝は朝貢国としての臣下の礼を求めた(① p. 318)。外国使節が中国皇帝に謁見するときに、中国の儀礼(3度ひざまずき、そのたびに3回ずつ頭を床につけて拝礼する)にしたがうかどうか問題となった(⑧ p. 140)。熱河に避暑中の乾隆帝はマカートニーに朝貢国の儀礼を求めたが、結局はヨーロッパ式の作法(片膝をついている)を許可したと言われる(⑨ p. 227)。清朝皇帝に対する伝統的儀礼である「三跪九叩頭」を清側が要求、イギリス側はこれを屈辱的として拒否した。このままでは使節訪問の意味がなくなる。妥協のすえに、マカートニーは片膝を立てた異例の姿勢を取る(⑳ pp. 332-333)。マカートニーは朝貢国のおこなう「三跪九叩頭の礼」を求められたが理解できず、ヨーロッパ式の礼で乾隆帝に謁見した(⑰ p. 219)。</p>
<p>Q19 イギリスはどのような対応をしたか？</p>	<p>11 メキシコなどのラテンアメリカ産の銀の世界市場への供給量が減少した。</p> <p>12 イギリスは銀を支払わずに貿易赤字を補填する方法として、植民地インドからアヘンを清に輸出して茶と交換し、イギリスからインドへは綿織物を輸出するという三角貿易をはじめた。</p>
<p>Q20 三角貿易とは何か？</p>	<p>13-14 大西洋三角貿易とアジア三角貿易がある。</p>

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

<p>Q21 大西洋三角貿易とは何か？</p>	<p>図1</p> <p>大西洋三角貿易</p> <p>アフリカ → 黒人奴隷 → アメリカ大陸</p> <p>綿布・武器 砂糖・綿花・コーヒー</p> <p>イギリス</p>
<p>D9 図1をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>13 大西洋三角貿易ではアフリカから黒人奴隷がアメリカ大陸へ、アメリカ大陸から砂糖・綿花・コーヒーがイギリスへ、イギリスから綿布・武器がアフリカへ輸出された。</p>
<p>Q22 アジア三角貿易とは何か？</p>	<p>図2</p> <p>アジア三角貿易</p> <p>イギリス</p> <p>銀・手形 綿織物 茶 銀</p> <p>インド → アヘン → 清</p> <p>← 銀・手形 ←</p>
<p>D10 図2をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>14 アジア三角貿易では清から茶がイギリスへ、イギリスから綿織物がインドへ、インドからアヘンが清へ輸出された。一方、イギリスから銀が清へ、清から銀がインドへ、インドから銀がイギリスへ輸出された。</p> <p>イギリスへの輸出品 1825年の時点では、清からイギリスへの輸出品は、茶(紅茶)が95%以上を占めていた(15 p. 136)。アジア三角貿易 18世紀(片貿易の時)には、茶などの代価としてメキシコ銀が清に流入していたが、19世紀にアヘン密輸が盛ん(三角貿易)になると、大量の銀が清から流失していった(2 p. 211)。片貿易から三角貿易への移行により、清から大量の銀が流出した(18 p. 242)。中国からイギリスへの茶貿易が1780年代に成立する。ついでインドから中国へのアヘン貿易が1800年代に成立、最後にイギリスからインドへの綿製品貿易が1820年代に成立し、ここにアジア三角貿易が完成する(23 pp. 345-346)。</p>

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

<p>Q23 どのような経済体制が新たに登場したか？</p>	<p>図3 19世紀前半の大西洋三角貿易とアジア三角貿易の概念図</p> <p>大西洋三角貿易</p> <p>アフリカ → 黒人奴隷 → アメリカ大陸</p> <p>綿布・武器 砂糖・綿花・コーヒー</p> <p>イギリス</p> <p>銀・手形 綿織物 茶 銀</p> <p>インド → アヘン → 清</p> <p>銀・手形 ←</p> <p>茶 手形</p> <p>アジア三角貿易</p>
<p>D11 図3をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>15 両者を結ぶものとして、手形が活用された。アメリカ大陸からイギリスへ綿花が輸出された。アメリカ商人はロンドンあての「手形」を発行した。アメリカは清への決済（茶の代金）、清はインドでの決済（アヘンの代金）、インドはイギリスでの決済（綿織物の代金）として使った。</p>
<p>Q24 戦争への反対論はなかったか？</p>	<p>24 麻薬のための戦争に対し、議会で反対論が起こった。</p>
<p>D12 文書2を読んで、どのようなことがわかるか？</p>	<p>文書2 グラッドストンの議会演説「その起源においてこれほど正義に反し、この国を恒久的な不名誉の下に引き続けることになる戦争をわたくしは知らないし、これまでもきいたこともないと明言できる…」(19 p. 227)。</p> <p>不義の戦争 イギリス議会では、グラッドストーンのように「不義の戦争」として開戦に反対するものも多かった (20 p. 164)。</p>
<p>Q25 イギリスはどのような対応をしたか？</p>	<p>25 武力による自由貿易の拡大を正義とみなし開戦を決めた。</p> <p>議会での結果 (1839年) 10月に閣議を開く。閣議は膨張論者のパーマストーン外相の主導で進行し、ただちに出兵を決議した。このままアヘン市場を失えば植民地インドの税収を脅かし、パクス・ブリタニカ（イ</p>

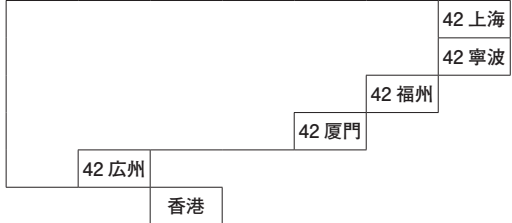

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

		<p>ギリスの平和)に大きな穴があく。ついで内閣は作戦計画を指示した。…おもな軍艦が帆船であるため、季節風をうまく利用する必要がある、…必要な船舶数・訪問数・兵員数などを挙げる。この段階ですでに…5港の開港、1つ又は複数の島の割譲まで明記している(23 pp. 361-362)。パーマストン外相は、自由貿易主義が強まっていた議会に、艦隊(艦船40, 兵員4,000名)派遣を小差で通過させた(16 p. 176)。イギリス議会で清への出兵に関する予算案は賛成271票、反対262票の僅差で承認された(10 p. 135)。</p> <p>アヘン輸出の背景 インド植民地財政の黒字化の第一貢献者がアヘン収入である。宗主国イギリス政府(議院内閣制)は選挙対策もあり、「安い政府を標榜」、そのためにこの甘い汁を自ら捨てるのが難しかった。インド領内の密売を禁止したため、販売市場は外国だけであり、その最大市場が中国である。それを失えば、植民地財源の柱であるアヘン専売収入を得られなくなり、本国財政まで打撃をうける。こうしてアヘン輸出が使命となった(23 pp. 350-351)。</p>
<p>展開3 アヘン戦争と南京条約</p>	<p>D13 絵1を再度みて、どのようなことがわかるか?</p> <p>Q26 なぜ清の軍隊はイギリスの軍隊に負けたか?</p> <p>Q27 どのような差であったか?</p>	<p>絵1 アヘン戦争(蒸気船・ネメシス号 VS ジャンク型軍艦)</p> <hr/> <p>29 1841年1月、イギリス軍艦に撃破される清のジャンク型兵船。イギリス軍艦はほぼ半数が蒸気船であった。</p> <p>清朝の艦船が燃え、イギリス軍の船が圧倒していることがわかる。絵の由縁 戦後まもなくイギリスで描かれた絵。蒸気船は帆船をひいて動かすのには有効だったが、備えた大砲は少なかった。イギリス軍は、この絵の右端の小型ボートから清朝の艦船を砲撃・撃沈している。しかし、似た構図の別の絵では、おそらく蒸気船の威力を強調するためであろう、ボートは消されている(2 p. 212)。</p> <hr/> <p>27 軍事力(科学技術)に差があったから。</p> <hr/> <p>28 イギリスには風や潮に左右されない蒸気船があった。イギリスの砲は、飛距離と正確さなどに優れていた。</p>

	<p>武器・兵器の比較：イギリス側の優位 近代兵器をもつイギリスに対し、旧来の火器しかない清朝は圧倒された (① p. 319)。イギリス艦隊をむかえうった清の大砲のなかには、200年以上前にポルトガルから輸入したものもあり、それらは1発うつのに30分もかかったという (④ pp. 182-183)。海戦で木造のジャンク船による清軍は、鋼鉄製の蒸気船の軍艦を持つイギリス軍の攻撃にたちうちできなかった (⑫ p. 144)。</p>
<p>Q28 どのような戦いであったか？</p>	<p>戦争の発端 1839年9月、清国で2回の交戦事件が起きた。…11月3日、イギリス軍艦ロイヤル・サクソン号が…中国船3隻を沈没させる。イギリスの大砲が中国を圧倒した。この3回の交戦事件で、実質的にアヘン戦争が始まる (⑬ pp. 360-361)。イギリス派遣軍の第一陣が広東沖に姿を見せたのは1840年6月である。予定より3ヶ月ほど遅れた。…すぐに長江河口の外にある周山を戦場に選んだが、戦況は思うように進まなかった (⑬ pp. 362-363)。</p> <p>戦争の長期化 1840年秋には戦場を南の広東省に移し、1841年夏まで釘づけになった。…蒸気軍艦ネメシス号も到着したが戦況は好転せず、1841年秋に再び戦場を長江下流域に移す (⑭ pp. 363-364)。</p> <p>海上戦VS地上戦：イギリス側の優位？ 地上戦になったが、清朝正規軍は戦闘を回避することが多く、代わりに広州の漁民・農民たちがゲリラ戦で対抗した (⑮ p. 363)。イギリス軍は、海上からの艦砲射撃では圧倒的な力を発揮したが、陸上では、中国民衆のゲリラ的抵抗にあって苦戦した (⑯ p. 296)。イギリス軍は強力な兵器による艦砲射撃で清の軍艦を圧倒しながら北上を続けたが、陸上では中国民衆のゲリラ戦術の抵抗で苦戦した (⑰ p. 112)。イギリス軍は海上では清軍を圧倒したが、陸上では民衆の抵抗にあい苦戦した (⑱ p. 164)。1841年、広州地方(三元里)の郷紳と民衆は平英団を組織して、はげしくイギリス軍に抵抗し、その後も長い間、イギリス軍の広州入城をこばみ続けた (① p. 319)。</p> <p>香港島の占領 イギリスは制海権を保持し、41年1月、香港島を占領して永久居留地(植民地)とし、香港政府</p>

	<p>樹立を宣言する (⑳ pp. 362-363)。戦争の終結 1842年5月、長江の航行権を制覇、ついに大運河が交差する鎮江を押さえ、7月には中国第二の都市・南京に迫った。鎮江は物資運搬の拠点である。ここを押さえられると、「南糧北調」(南で産出した食料を北へ運ぶことで全国的に調整すること)の流通ルートが阻止され、首都北京に物資が届かなくなる。北京は一大消費都市であり、近辺の華北からの食糧だけでは生活がなりたない (㉒ p. 364)。南京条約 1842年8月29日、イギリス軍は清朝全権大使の耆英らを、南京沖の長江に停泊する旗艦コーンウォーリス号に呼びつけ、南京条約に調印させた (㉒ p. 364)。</p>
<p>Q29 林則徐は、その後、どうなったか？</p>	<p>林則徐の解任 林則徐は、27歳で科挙に合格し、地方行政で手腕を発揮した。不正を許さない清廉官僚としてアヘン問題にも積極的に取り組んだが、開戦の責任を取られ更迭された。のちに太平天国の鎮圧を命じられたが、直後に病没した (⑩ p. 135)。外国との戦争は、現状に大きな変更を加えざるをえない。現状維持派が戦争停止に躍起になった事情は、およそ想像がつこうというものである。…英国との交渉が当をえなかったため、深刻な事態を招来した…という理由で、林則徐はアヘン戦争の最中に解任された (㉑ p. 262)。林則徐は、アヘン戦争が始まると劣勢の中でも徹底抗戦を主張したが、やがて解任された。開戦の責任を負わされて辺境イリ(現在、中華人民共和国新疆ウイグル自治区)に追放された (⑰ p. 218)。</p>
<p>Q30 南京条約はどのようなものだったか？</p>	<p>30 自由貿易の原則をにかけて広州の公行の廃止を定めた。上海などの長江以南の5港の開港、賠償金の支払い、香港(香港島)の割譲を定めた。</p> <hr/> <p>イギリスの目的 イギリスの目的は、アヘン貿易の利益を守るだけでなく、中国という広大な市場に綿製品などの輸出を拡大させるための様々な障壁を除くことであった (㉑ p. 164)。南京条約で朝貢貿易体制は崩壊し、西欧主導の自由貿易体制に組み込まれた。対等の外交と領事駐在の承認 (⑰ p. 219)。賠償金 賠償金は戦費賠償1200万ドルを含み、総額で2700万ドルである。そのうち1500万ドルは、6回の延べ払</p>

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

	<p>いにまわされた (23 p. 364)。賠償金 2100 万ドル (戦費・没収アヘンの補償など) (18 p. 242)。1839 年、林則徐が没収したアヘンの原価 600 万両+中国商人の負債 300 万両の補償も求めた (16 p. 177)。</p>
<p>D14 略図 1 をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>略図 1 南京条約の開港場</p>  <p>長江以南の沿岸部の 5 つの港が開港された。どの港も歴史的に有名な港である。</p>
<p>D15 グラフ 3 をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>グラフ 3 インド産アヘンの対清輸出額の推移 (1813-1856) 縦軸単位・ポンド</p> <p>インド産アヘンの対清輸出額の推移 (1813-1856)</p>  <p>戦前、林則徐の活躍でアヘンの輸入は減少したが、その後も、輸入は続いた。</p>
<p>Q31 南京条約にアヘンのことは記されていたか？</p>	<p>アヘン? 南京条約には戦争の原因となったアヘンに関する条項がない。…条約締結の直前に、アヘン条項は記載しないことで合意… (23 p. 365)。</p>
<p>Q32 なぜアヘンのことが条約に記載されなかったか？</p>	<p>アヘン密輸の継続 条約には、アヘン条項を入れませんが、清朝官憲はアヘン密輸を取り締まらないという密約である。こうしてアヘン貿易は「公然たる密輸」状態となった (23 p. 365)。</p>

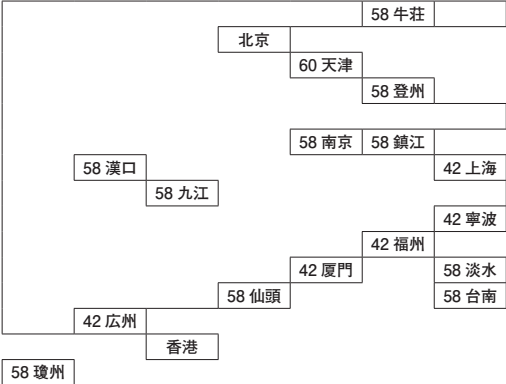
どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

<p>D16 南京条約後の条約について確認しよう。</p>	<p>[31] 1843年、清は虎門寨追加条約、五港通商章程などをイギリスと締結した。その後、清はイギリスとの諸条約を整理して、同じ内容の条約をアメリカ合衆国(望厦条約)、フランス(黄埔条約)と締結した。</p>
<p>Q33 なぜイギリスは様々な条約を結んだか？</p>	<p>イギリスは対清貿易の伸びを期待したから。</p>
<p>Q34 様々な条約はどのようなものだったか？</p>	<p>[32] 清は、3国に対し、片務的な最恵国待遇とともに、治外法権および領事裁判権を与え、関税自主権を失った。これらの条約は後に不平等条約とよばれるようになる。</p> <p>[不平等条約] 不平等条約は、虎門寨追加条約、五港通商章程をさす(③ p. 296, ⑤ p. 311)。 [租界] イギリスは1845年に最初の租界(外国が行政権をもつ区域)を上海に設け、それ以後開港場には外国租界が増えていった(③ p. 296, ⑤ p. 311)。開港場では、外国人が中国政府から土地を借りて居留地を建設した(租界)が、それはしだいに中国政府の主権がおよばない地域となっていた(⑬ p. 107)。</p>
<p>Q35 片務的な最恵国待遇とは何か？</p>	<p>[片務的な最恵国待遇] 通商条約において、清朝が別の国に対して与えた有利な条項を、自国にも自動的に適用するという約束。相互的ならば今日でも珍しいものではないが、清朝の場合は一方的な義務とされた(② p. 212)。A国がB国と条約を結んだのち、C国と別の条約を結んだ場合、C国に与えた特権をB国にも与えるという条項。B国がA国に対し同じ義務を持たない場合、A国の方が不利な条件となり、これを片務的最恵国待遇という(③ p. 296, ⑤ p. 311)。</p>
<p>Q36 治外法権とは何か？</p>	<p>[33] 条約国民に清の司法権が及ばないこと。</p>
<p>Q37 領事裁判権とは何か？</p>	<p>[34] 条約国民に関する裁判を外国領事が行うこと。</p> <p>[領事裁判権] 外国人は、罪をおかしても清朝の裁判を受けず、自国の外交官による裁判に従うという権利を指す(② p. 212)。</p>
<p>Q38 関税自主権とは何か？</p>	<p>[35] 一定の関税率を定め、国が単独で税率を変更する権利のこと。</p>

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

		<p>関税自主権の喪失 関税率が協定で定められたので、清朝は自国の政策によって税率を決定することができなくなった (② p. 212)。</p>
	Q39 清は不平等条約に対し、どのような対応をしたか？	<p>[36] 当時は不平等性は強く意識されず、周辺諸国との冊封・朝貢関係は存続した。</p>
	Q40 イギリスの目的は達成されたか？	<p>[37] イギリスの対清貿易も期待したほどのびなかった。</p>
	Q41 清の敗戦は、どのような影響を与えたか？	<p>[38] 清の敗北は、日本を含む周辺諸国に大きな衝撃を与えた。</p> <p>[39] 武力で条約締結をせまる姿勢(砲艦外交)への警戒が各地の攘夷論や海防論、軍備強化論に結びついた。</p> <p>[40] 中国で編纂された『海国図志』などの世界地理書などが東アジア各地で広く読まれるようになり、近代国家建設への希求にも結びついた。</p> <p>江戸幕府の対応 江戸幕府は、オランダ人・中国人との長崎貿易を通じて海外情報の収集に努めていた。アヘン戦争の動向は、日本にもまもなく伝えられ、江戸幕府も海防の対策を進めるようになった (② p. 214)。</p>
展開4 アロー戦争と天津・北京条約	D17 アロー戦争とその条約について確認しよう。	<p>[41] 1856年、イギリスは、フランスをさそって清と開戦した(アロー戦争、第2次アヘン戦争1856-60)。英仏軍は、清と天津条約、北京条約を締結した。</p>
	Q42 なぜイギリスは再び清と戦争を始めたか？	<p>[37] イギリスの対清貿易も期待したほどのびなかったから。</p> <p>条約の効果? 南京条約後も、列強の対清貿易はさほど伸びず、新たな交渉も北京に公使が常駐できないことから滞ったから。中国人の排外的態度から、欧米人が身の危険を感じることも多かったから (⑨ p. 227)。</p>
	Q43 戦争はどのように始まったか？	<p>[42] イギリスはアロー号事件を口実に、広西での宣教師殺害事件で清に抗議していたフランスをさそって開戦した。</p>
	Q44 アロー号事件とは何か？	<p>[43] イギリスが香港船籍と主張するアロー号(船長はイギリス人)の清人船員が海賊の容疑で逮捕された際に、船に掲げていたイギリス国旗が侮辱されたことを口実にした事件のことである。</p>


どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

	<p>事件の経緯 イギリスは自国船籍の船に対するこのような行動は不当であるとして、清に対する戦争が開始されることになった。しかし、アロー号の船籍登録は期限を過ぎていた (⑥ p. 182)。</p>
<p>Q45 戦争はどのように終結したか？</p>	<p>44 英仏軍は、天津を占領し、清と天津条約を締結した。</p>
<p>Q46 天津条約はどのようなものだったか？</p>	<p>45 自由貿易の保障とアヘン貿易の公認を認めた。外交使節の北京常駐、漢口など10港の開港、長江などの航行権、キリスト教の内地布教権、賠償金の支払いなどを定めた。</p> <p>締結国 英・仏・露・米と結んだ (① p. 320)。 アヘン取引 付属の通商細則でアヘン(洋薬)の輸入も公認した (① p. 320)。アヘンを合法的な交易品として認めた (⑨ p. 118)。アヘンの取引は1858年のアヘン輸入合法化以前においてはすべて密輸であった (⑳ p. 227)。 外国人の自由 外国人の中国内地旅行の自由 (⑱ p. 243)。 賠償金 賠償金英に400万両、仏に200万両 (⑱ p. 243)。</p>
<p>D18 略図2をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>略図2 天津条約・北京条約の開港場 42が南京条約, 58が天津条約, 60が北京条約の開港場。</p>  <p>増加した開港場の役割 東海岸にある南から北までの大きな港、長江内部の港、台湾の港、10港が開港された。併せて15の港が開港されたことになる。し</p>

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

	たがって、外国人が中国国内を自由に回れるようになったと考えられる。
Q47 なぜ再び戦争が始まったか？	<p>[47] ふたたび戦端が開かれた。</p> <p>[46] 清軍が天津条約の批准に来た英仏の使節の入京を阻止したから。</p>
Q48 戦争はどのように終わったか？	<p>[48] 英仏軍は、北京に攻め入り、離宮である円明園を略奪し、清と北京条約を締結した。</p> <p>[円明園の破壊] 戦争中の英仏連合軍による略奪・破壊は激しく、中でもバロック式の華麗な庭園を誇る円明園が焼失、『四庫全書』など、多くの文化財が失われた(⑩ p. 177)。 [蛮行] 北京の西北郊にある離宮は、そのまま保存され、列強の「蛮行」を今に伝えている(⑨ p. 227)。</p>
Q49 北京条約はどのようなものだったか？	<p>[49] 天津条約の内容に追加したものであった。天津の開港(追加)、賠償金の支払い(増額)、九龍半島の南部の割譲(対英)、ウスリー川以東の沿海州の割譲(対露)などを定めた。</p> <p>[締結国] 英・仏・露と結んだ(① p. 320)。 [賠償金] 賠償金英仏に各800万両に増額(⑧ p. 243)。 [香港付近の状況] 1842年、香港島割譲。1860年、九龍市街地割譲。1898年、英領の防衛を口実に九龍半島の租借。1997年、中国に全面返還(⑩ p. 177)。 南京条約で香港島を獲得したイギリスは、その後、九龍半島やまわりの島を借りて直轄植民地とした(⑪ p. 133)。1850年ごろの香港は、人口7,000人あまりで、アヘン戦争を開始したパーマストン外相ですら、「不毛の島」と呼ぶほどであった。しかしイギリスがここを自由港とし、華南貿易の拠点として以降、発展していった(⑥ p. 182)。イギリスの施政下にあった香港は、国際金融センター、あるいは中国本土との中継貿易基地として発展した。隣接する深圳の経済特区の成功にも大きく寄与した(⑨ p. 228)。</p>
Q50 なぜ清は沿海州をロシアに割譲したか？	<p>[50] ロシアは清の苦境に乗じたから。</p> <p>[ロシアの調停] ロシアの調停で1860年北京条約を結んだ(⑩ p. 177)。</p>

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

	<p>Q51 このような状況の中、清は各国とどのように対応したか？</p>	<p>[51] 1861年、清は各国公使館(英仏米露)との対応窓口として、総理衙門を設置した。</p> <p>[朝貢・冊封体制の崩壊] 清は対外関係を処理するため、総理衙門や北洋大臣を窓口とした。しかし、朝貢国を自国の一部と主張する清側の概念は、近代的国際法の理念を持ち込もうとする列強との対立を強めた。軍備増強も思うように果たせず、日清戦争後、朝貢・冊封体制は実質的に崩壊した(⑩ p. 226)。</p>
<p>終結 まとめ</p>	<p>Q52 その後、アヘン貿易はどうなったと思うか？</p>	<p>増えた。減った。維持した。</p>
	<p>D19 グラフ4をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>[グラフ4] インド産アヘンの対清輸出額の推移(1813-1914) 縦軸単位・ポンド</p> <p>インド産アヘンの対清輸出額の推移(1813-1914)</p>  <p>アヘンが合法化されても輸入量は増え続けた。</p>
	<p>D20 グラフ5をみて、どのようなことがわかるか？</p>	<p>[グラフ5] 中国のアヘン輸入量の推移(1800-1894) (⑩ p. 242) 縦軸単位・箱(1箱:約60kg…常用者100年の年間消費量)</p> <p>中国のアヘン輸入量(1800-1894)</p> 

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

	アヘン流入 アヘン流入は、アヘン戦争後の清朝の指導力の低下と天津条約によるアヘン貿易公認により激増した。1888年をピークに流入が減少するのは、国内産アヘンが増加したためである (⑰ p. 218)。
Q53 なぜ第2次アヘン戦争と呼ばれたか？	アヘン貿易の公認を求める戦いだったから。

5. おわりに

本稿では、東京書籍の『世界史 B』を中心に、学習指導案「アヘン戦争」を作成した。この教科書には、アヘン戦争の原因が2つ記されていたので、前半はそれぞれを追究させるような展開にすることにした。そして、前半でアヘン戦争と南京条約を分析させることができたので、後半のアロー戦争、天津条約、北京条約に関しては、前半と比較・検討させるような展開にすることにした。

活用の中心となる教科書が変われば、授業の展開は少し異なるものになるかもしれない。重要なのは、教科書をしっかり読み込むことである。しっかりと読み込めば、いろいろな疑問が湧き出る。納得できる説明、資料はないかと、別の教科書、資料集、専門書を自然に探し始めることとなる。

アヘン戦争で有名な「ネメシス号とジャンク船」の絵を見ると、圧倒的にイギリスが強いと感じる。学習指導案「アヘン戦争」でも触れたが、アヘン戦争の経過を細かく検討すると、イギリスが強かったのかどうかわからなくなる。

歴史の授業で、歴史的事象を細かく検討することは、事実を明らかにするという意味で重要である。しかし、学校教育は決められた時間の中でおこなわれている。現行の世界史 A であれば2単位 (2×50分×35週=3,500分)、世界史 B であれば4単位 (4×50分×35週=7,000分) である。歴史的事象を細かく検討し過ぎると、教科書そのものが終わらない。他方、荒く検討し、教科書をやり終え、重要語句の暗記になっても意味がない。教科書にあるすべての歴史的

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

事象を細かく検討する必要はないが、適宜、細かく検討し、生徒に歴史の見方・考え方を身につけさせることは重要である。本稿がその一助になれば幸いである。

註

- (1) 2017年秋学期の社会科・地理歴史科教育研究2の授業でおこなった。
- (2) 岡明秀忠「教科書を活用した社会科授業づくり」原田智仁編『社会科教育のフロンティア』保育出版社、2010年、pp.74-78を参照。
- (3) 尾形勇ほか『世界史B』東京書籍、2013年、pp.306-333。講談社から英語版も出ている。尾形勇ほか『英語で読む高校世界史』講談社、2017年、pp.252-275。
- (4) 加藤祐三・川北稔『アジアと欧米世界』中央公論新社、2010年、p.361。
- (5) 尾形勇ほか『世界史B』東京書籍、2013年、pp.323-325。
- (6) 岡明秀忠「授業をどう考えるか」望月重信ほか編著『日本の教育を考える——現状と展望——』学文社、2010年、pp.189-200を参照。
- (7) 以下の世界史B、世界史Aの教科書を参考にした。引用の関係で、①から⑮までの番号を付けた。習得させたい知識に新たに付け加えたものは、別のフォントで示し、丸数字で引用先を示し、さらに、引用頁を示した。

世界史B教科書	①	2東書/世B301	尾形勇ほか『世界史B』東京書籍、2013年
	⑦	7実教/世B302	木畑洋一ほか『世界史B』実教出版、2014年
	②	46帝国/世B303	川北稔ほか『新詳世界史B』帝国書院、2014年
	③	81山川/世B304	木村靖二ほか『詳説世界史』山川出版社、2013年
	④	2東書/世B305	相良匡俊ほか『新選世界史B』東京書籍、2014年
	⑤	81山川/世B306	岸本美緒ほか『新世界史』山川出版社、2014年
⑥	81山川/世B307	木村靖二ほか『高校世界史』山川出版社、2014年	
世界史A教科書	⑦	2東書/世A301	加藤晴康ほか『世界史A』東京書籍、2014年
	⑧	7実教/世A302	平田雅博ほか『世界史A』実教出版、2013年
	⑨	7実教/世A303	木畑洋一ほか『新版世界史A』実教出版、2014年
	⑩	35清水/世A304	上田信ほか『高等学校世界史A最新版』清水書院、2014年
	⑪	46帝国/世A305	岡崎勝世ほか『明解世界史A』帝国書院、2013年
	⑫	81山川/世A306	木村靖二ほか『要説世界史』山川出版社、2013年
	⑬	81山川/世A307	近藤和彦ほか『現代の世界史』山川出版社、2014年
	⑭	81山川/世A308	近藤和彦ほか『世界の歴史』山川出版社、2014年
	⑮	183第一/世A309	曾田三郎ほか『高等学校世界史A』第一学習社、2014年

どのようにして歴史の授業を作るのか(4)

- (8) 左欄が資料名である。基本的には、教科書で記されている資料名にした。★印のものは同じ資料であるが、資料名が教科書によって違っていった。紙幅の関係で、統一した。中欄は、資料がどういうものを示した。図、地図、説明、文書などに分けた。右欄は教科書毎に、資料がある場合は、●印を入れた。①、②…は註(7)の番号と同じものである。
- (9) 例えば、「インド産アヘンの対清輸出額の推移」、「三角貿易の図」、「開港場」など。
- (10) 以下の世界史資料集、専門書等を参考にした。引用の関係で、⑯から㉔までの番号を付けた。習得させたい知識に新たに付け加えたものは、別のフォントで示し、丸数字で引用先を示し、さらに、引用頁を示した。

資料集	⑯	『新詳世界史図説』 浜島書店, 2013 年
	⑰	『ニューステージ世界史詳覧』 浜島書店, 2013 年
	⑱	『アカデミア世界史』 浜島書店, 2013 年
	⑲	『グローバルワイド最新世界史図表 新版』 第一学習社, 2013 年
	㉔	『21 世紀の歴史図表 ダイアローグ世界史図表 新版』 第一学習社, 2013 年
専門書等	㉑	陳舜臣『実録アヘン戦争』中央公論新社, 1985 年(原著は 1971 年)。
	㉒	陳舜臣『新装版阿片戦争(一)(二)(三)(四)』講談社, 2015 年(原著は 1973 年)。
	㉓	加藤祐三・川北稔『アジアと欧米世界』中央公論新社, 2010 年(原著は 1998 年)。
	㉔	川北稔『イギリス近代史講義(講談社現代新書 2070)』講談社, 2010 年。
	㉕	川北稔『イギリス近代史講義(講談社現代新書 2070)』講談社, 2010 年。
	㉖	秋田茂『イギリス帝国の歴史 アジアから考える(中公新書 2167)』中央公論新社, 2012 年。

- (11) 教授書は、森分孝治氏が提唱した学習指導案の形式である。教授・学習活動をしっかりと示すのがよいが、すべての発問を生徒におこなうのは難しい。生徒に対し、どの発問を実際におこなうかは読者に任せたい。